

(財)日本医療機能評価機構認定病院

地域医療支援病院

盛岡赤十字病院地域医療連携室広報誌



LEAF

令和3年10月

第43号

盛岡市三本柳 6-1-1

盛岡赤十字病院

地域医療連携室

発行責任者 院長 久保直彦

<基本理念>

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、
みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



特集

放射線治療部門のご紹介
在宅療養後方支援病院患者登録のお願い
紹介患者様の事前予約にご協力をお願いします

連載

シリーズ認定看護師（救急看護認定看護師）

医療技術部 放射線治療技術係長 佐藤 光 博

私たちの外照射放射線治療装置が2014年4月にVarian社製リニアック（Clinac iX）へ更新されて7年が経ちました。この間にのべ人数で750名の患者さんに画像誘導システムによる位置合わせ原体照射を基本とした放射線治療を行ってきました。放射線治療専門医2名、放射線治療専門技師2名（放射線治療品質管理士2名）、看護師1名からなる診療スタッフで治療にあたっています。数門の原体照射から主に前立腺癌に対する強度変調治療（IMRT）や血液がんに対する全脳全脊髄照射など多岐にわたる治療を行っています。今年度からは乳房温存療法の放射線治療で従来の通常分割照射（25回、治療期間5週間）に寡分割照射（16回、治療期間3週間）をオプションに加え、通院で治療する患者さんの負担やcovid-19感染リスクの軽減をはかっています。また、IMRTの適応を子宮頸癌や直腸癌へ拡大してより安全な根治治療を目指しています。今後は可能な定位照射や呼吸モニタリングによる息止め照射を導入する予定です。



私たちの信条は患者さんの心のケアを大切に、スタッフ一同が患者さんに寄り添いながら放射線治療を完遂することです。よくみられる放射線性皮膚炎に対するスキンケアは照射開始前から終了後まで認定皮膚排泄ケア看護師とともに取り組んでいます。また、遠隔転移やがん進行による併発症に対する緩和照射では、患者さんが楽に治療を受けられるようきめ細かいサポートを行うほか、照射回数を従来の10回から5回に減らして治療期間を短縮し、転移性脊髄圧迫などの切迫した場合には可及的速やかな照射開始で患者さんのQOL維持をはかっています。

私たちはさらなる研鑽を積んで、院内はもとより院外の医院や病院でがん診療に取り組む方々のニーズにも答えながら地域のがん医療に貢献して参りたいと考えております。今後とも当部門に放射線治療のご依頼を頂きますようよろしくお願い申し上げます。



在宅療養後方支援病院患者登録のお願い

当院では、事前に入院希望届をご提出いただいた在宅療養中の患者様は、緊急入院の必要が生じた場合、速やかに入院することができます。万が一当院で入院治療を行うことができない場合は、当院が適切な医療機関へご紹介いたします。

在宅療養中の患者様で緊急時に当院での入院治療をご希望の場合は、あらかじめ当院ホームページ掲載の「入院希望届」を作成し、公的医療保険情報を添付の上、当院地域医療連携室へお送りください。当院診療科の医師と調整の上、ご登録の可否をご連絡致します。また登録した患者様へは後日、当院の診察券をお送りいたします（受診歴があり、既に当院の診察券をお持ちの方へはお送りいたしません）。

なお、緊急時の対応をスムーズに行うために、登録された患者様の診療情報等の交換を、月に1回連携文書をご提出していただく形で行います。

緊急入院時の連絡先

- 平日（8時30分から17時まで）… 担当者：地域医療連携室看護師長 小田切宏恵
連絡先：070-6953-8736 または地域医療連携室（直通）019-637-3312
- 夜間・休日…………… 連絡先：救急外来（内線490）

緊急入院時の受入方法

電話にて、登録患者様を紹介する旨のご連絡をお願い致します。その際、下記の確認事項をお教えいただきますようお願い致します。当院での受け入れの可否について、当院医師よりご返答差し上げたのち、患者様へ当院に向かうようお伝えください。

■確認事項

- ・患者様の登録の有無
- ・名前と当院患者ID（当院の受診歴がある場合）
- ・現在の病状 ・入院目的 ・来院方法（救急車の使用／不使用）

問合せ先

地域医療連携室
連絡先：019-637-3312（直通）

紹介患者様の事前予約にご協力をお願いします

地域医療連携室

当院へのご紹介にあたりましては、当日であっても、可能なかぎり地域医療連携室への事前予約をお願い致します。事前予約をいただくことにより、患者様をお待たせすることなく、よりスムーズにご案内することが可能になります。

地域医療連携室 予約受付時間

【FAX】 019-637-3313(専用) 平日 8:30～16:50
【TEL】 019-637-3312(直通) 平日 8:30～17:00



紹介元の医療機関
③来院ご案内
・紹介状等



患者さん

予約紹介患者さんの流れ

①外来診療申込書（FAX）

②来院のご案内（FAX）

④受診（紹介受付へ）

盛岡赤十字病院

地域医療連携室



各診療科（外来）

救急看護認定看護師 生内 秋子

2014年に救急看護認定看護師の資格を取得してから、救命技術の研修をさせていただく機会が増えるようになりました。取得したての頃は極度の緊張で、話す声は震え上手く説明できませんでしたが、先輩方にたくさんフォローしてもらい何とか研修を終えたことを今でも忘れません。その後は先輩方の指導技術を学ばせていただきました。院外ではBLSコースなどで多くの先生や先輩からご指導をいただき、ようやく受講者の顔を見ながら適度な緊張感で救命技術を説明できるようになりました。本当にありがとうございます。

私が院内で担当している救命技術研修は、新人・新任看護師を対象にした救急レベルⅠ、リーダー的役割ができる看護師を対象にした救急レベルⅡです。救急レベルⅠ研修は、バックバルブマスクによる人工換気、AEDを用いたBLS、気管挿管の介助、医師への報告や家族への連絡方法です。救急レベルⅡは、急変の兆候を見抜く観察と介入方法、心停止の4つの波形診断、心停止のアルゴリズムについてです。2016年からは近隣の施設にも研修会のお知らせを行い、2019年までの4年間で近隣施設の方は救急レベルⅠに36名、救急レベルⅡに9名が受講して下さいました。受講された方からは、「面白かった」「急変に当たることが少ないから勉強になった」等という声をいただきました。現在は新型コロナ拡大予防のため、院外の募集は行えていませんが、受講される皆様が充実した研修になるよう企画していこうと思います。

院外の活動では日本救急医学会のICLSコースの企画運営をさせてもらっています。このコースは、医療従事者のための蘇生トレーニングコースで「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を1日かけて習得できるコースです。当院ではこのコースを行っていないので、私は県外に行って受講していました。とても勉強になるコースだったので、当院の職員や県内の多くの医療従事者の方がコースを受けられるといいな、とずっと考えていました。私が関わらせてもらっているICLSコースは2020年5月から始まり、今まで7回の開催で、約80名の参加をいただくことができました。今回、県内の開催ができるようご協力やご配慮いただきました多くの皆様に感謝申し上げます。受講いただいた中には「認定インストラクターになりたい」と熱意のある方も多く、皆様のお声に応えられるようにしたいと思っています。

災害研修におきましては、災害時地域医療支援教育センターで多くの実践研修をさせていただきました。北海道や宮城県の救護活動で実践することができました。また、技能維持として研修にタスク参加させていただいていることにも感謝いたします。

この7年間、院内だけでなく院外の方々の方々からあたたかいご指導をいただき、本当にありがとうございます。まだ至らない点はたくさんありますので、これからも皆様のご指導をいただき成長していきたいと思っています。よろしくお願い致します。

